

# 「二社」アップサイクルに参加 廃棄物を原料にした和紙糸製造

「TSUMUGI」企画で社会貢献

撚糸業地場大手の備後撚糸(株)(福山市芦田町福田872、光成明浩社長、電話084・958・3355)

はこのほど、廃棄される資源や食品残さのリサイクル率向上を推進する企業連携のプラットフォーム「二社」アップサイクル(大阪府、<https://upcycle.or.jp/>)に参加。廃棄される紙資源や



間伐材を紙糸にアップサイクルするプロジェクト「TSUMUGI」では、同社ならではの「和紙糸」の撚糸技術で重要な役割を担う。

現代および将来の世代のために持続可能な社会の実現に向けて、日清紡グループのニッシントーア・岩尾(株)やネスレ日本(株)、凸版印刷(株)など14の企業・団体が手を組んだ。日本国内の紙製容器包装材料のリサイクル率は約2・7%と低く、間伐材も活用できず放置されるケースがあることから、

同プロジェクトでは、工場で製造時に規格外として廃棄対象になる紙資源や間伐材のスギ・檜を使った「紙糸」にした「衣類」作りを企画。その一つとして、ネスレは紙製詰め替え容器から再生紙を作り、備後撚糸

で和紙糸にしてから衣類(Tシャツ・エプロン)にして、同社直営カフェの抽出後の残さで染め上げるアップサイクルの取り組みを2022年から行っている。今後は六甲山の間伐材を使った商品開発が進められるという。

備後撚糸は20年前から和紙糸製造に着手。現在は左右のひねりや回数など糸の撚り方を変えたり、別の繊維や素材と合わせることで糸の性質を変えるなど、様々な要望に合わせて対応できるようになったほか、新しい糸の開発にも注力している。

## 光成社長「写真」の話

「自分達の仕事为社会貢献活動になると同時に、全国規模の大手企業と一緒に仕事が出来るとは、社員モチベーション向上に大いに役立っています。納入される素材やその日の気候によって微調整が必要になります。職人としての誇りを持って頑張っています」。